拓水

TAKUSUI
No. 757

11
November.2019

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

大嘗祭 献上鯛

大嘗祭 献上鯛

令和元年度 大輪田塾修了・入塾式

《今月の海上安全標語》 ～ ノリ・カキ・ズワイガニなど 本格的な漁期到来 ～

瀬戸内海ではノリやカキ養殖など、日本海ではズワイガニ漁など本格的な漁期がスタートしました。
改めて、ライフジャケットなど法定備品の点検を行いましょう。もちろん着用も忘れずに！

安全は 日々のチェックと 自己意識!! では、今月も安全操業で!

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

週末の過ごし方

農政環境部農林水産局水産課 職員　山本 恭範

初めまして。県水産課の山本と申します。本稿では自己紹介も兼ねて、私が今没頭している趣味（魚料理、マラソン）について紹介し、私がアクティブな人間であるというイメージを植え付けたいと思います！（笑）

元々中学生のころから料理が好きで、休みの日には昼食を作るのが習慣でした。魚料理を始めたきっかけは、道の駅みつで行われていた「トロ箱祭り」です。トロ箱いっぱいに入った魚介類（日替わり）が1、000円で手に入ることから、週末は魚介類を使って色々な料理に挑戦しようと決めました。レシピはHPやSNS、レシピ本で調べたり、店のお父さんに聞いたりしています。魚の扱い方はまだまだですが、魚の骨格や完成形をイメージしながら料理をするのは楽しいです。今後の目標として、新レシピの開発はもちろん、普段捨ててしまうような内臓や骨などを簡単に味わえる調理方法を開発し、少しでも兵庫県の魚食普及に貢献したいと考えています。

マラソンは社会人になり、積極的に身体を動かさなければという使命感のもと始めました。社会人一発目のマラソンは、6月の姫路セントラルパークマラソンで、距離は10キロとそれほど長くはありませんでしたが、アップダウンが非常に激しく終盤歩いてしまい、タイムも平均を下回る結果となりました。十分に練習して備えていただけに悔しさが残る大会となりました。その悔しさをバネに8月には大阪城ナイトラン（10キロ）、9月には平尾台リレーマラソン（2キロ周回、計8キロ）に挑戦し、完走することができました。また、11月には赤穂シティマラソン（ハーフマラソン）にも挑戦しました。10キロ以上走ったことがなかったので不安でしたが、多くの声援を受けながら自然の中を走る21キロは今まで味わったことのない爽快な気分でした。12月には大阪クリスマスチャリティーマラソン（ハーフマラソン）、1月にはたつの市梅と潮の香マラソン（ハーフマラソン）が控えています。日々練習を行い、記録更新を目指します。来年は姫路城マラソンや下関海響マラソンなどのフルマラソンにも挑戦する予定です。

CONTENTS

No.757　November. 2019

2 ようそろ

3 ＪＦ高砂 シルバー賞 受賞
日本海 ズワイガニ漁 解禁

4 献上鯛まつり 開催
大嘗祭への献上鯛 宮内庁へ供納される

5 林業の新規就業者研修 見学
なぎさ信漁連とＪＦ明石浦　漁業経営セミナー共催

6 豊かな水産資源を育む適正な栄養環境の実現に向けた意見交換会

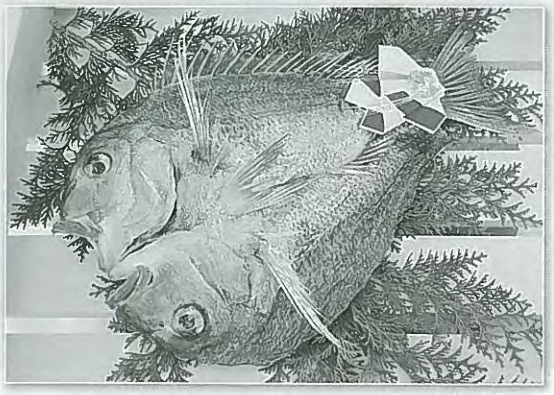
8 地引網体験
播磨地区漁協職員協議会 学習会

9 家族＝地域を支えるＬＧＣ（安全推進少年隊）活動
淡路水交会の「漁業者による森づくり」

10 大輪田塾だより

11 兵庫 JCC 通信

12 旬に想う
農業×漁業の若手組織連携プロジェクト



表紙の言葉

「大嘗祭 献上鯛」

天皇陛下皇位継承時の皇室行事「大嘗祭」で供えられる各都道府県の特産物「庭積の机代物（にわづみのつくえしろもの）」として、兵庫県水産物からは乾鯛と兵庫ノリが供納されました。

平成から令和へ 新時代の幕開けの儀式に供えられたことは大変名誉であり喜ばしいことです。新時代が平和であり、また水産業界にとってより良い時代となりますように。

JF高砂がシルバー賞を受賞!!
～「漁船の安全対策に関する優良な取組に対する表彰」の表彰が行われる～

水産庁は10月28日（月）、水産庁長官室において「漁船の安全対策に関する優良な取組に対する表彰」の表彰式を開催し、JF高砂（松本 力組合長）がシルバー賞を受賞しました。

水産庁では、漁船からの海中転落や船舶の衝突事故により多くの命が失われている現状があるなか、漁船の安全対策に関する優良な取組を行っているJFを表彰し、その取組事例を積極的に広報することで、漁業者の安全に係る意識啓発や取組の推進に繋げようと平成28年度よりこの表彰を行っています。

賞はブロンズ賞、シルバー賞、ゴールド賞の3種で、ライフジャケットの着用義務等漁業者の安全に関する取組を継続し、かつ、漁船事故に伴う死者・行方不明者および漁船事故を伴わない海中転落による死者・行方不明者が発生していない期間を、それぞれ3年以上をブロンズ賞、通算5年以上をシルバー賞、通算7年以上をゴールド賞と定めています。

今回のJF高砂は、30年以上続く高砂市漁連主催「海難防止講習会」の開催や、ライフガードレディースによるライフジャケット着用推進が評価され、2017年のブロンズ賞に続く受賞となりました。

表彰式では、全国からシルバー賞、ブロンズ賞それぞれ2JFが集まり、水産庁 山口長官から賞状が、全国共済水産業協同組合連合会深瀬常務より副賞の盾が送られました。

なお、全国の受賞JFは次のとおりです。

受賞後の記念撮影
（左からJF高砂、JFいとう、山口長官、深瀬常務、JF田子の浦、JF羅臼）

シルバー賞	JF高砂（兵庫県）	JFいとう（静岡県）
ブロンズ賞	JF羅臼（北海道）	JF田子の浦（静岡県）

日本海 ズワイガニ漁解禁!!

日本海の冬の味覚、ズワイガニ（松葉ガニ）漁が、富山県から島根県までの1府6県で11月6日（水）に一斉に解禁となりました。日本一の水揚げを誇る兵庫でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船46隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一斉に網を投入しました。

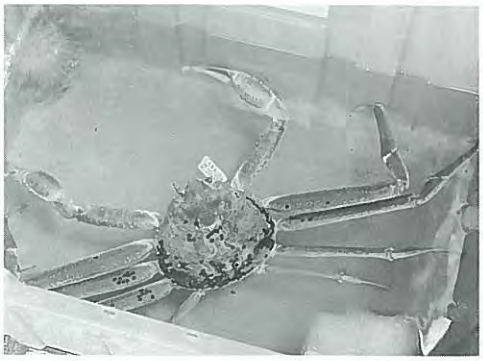
この漁の操業は3月20日まで行われますが、資源を守るために様々な自主規制を設けています。

・公休日の設定
11月中に公休日を設定し、各船が32時間以上の休みを3回設ける。

・漁期の短縮
メスガニ（セコガニ）は、本来1月20日までのところ12月31日まで。若マツバガニ（ミズガニ）は、本来11月6日～3月20日までのところ、2月1日から2月29日まで。

その他、航海日数によるメスガニや若マツバガニの尾数制限や甲幅規制（漁獲禁止サイズ）等があります。

いよいよ解禁となったズワイガニ漁。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。



初セリで300万の値が付いた松葉ガニ

「献上鯛まつり」開催

南あわじ市水交会では、「丸山地域づくり協議会」と連携して10月20日（日）に丸山漁港で「献上鯛まつり」を開催しました。まつりの地元である丸山地区では、大正、昭和、平成と3代にわたり、天皇陛下の即位時の大嘗祭などで鳴門鯛の開き干しを献上しており、今回のまつりも天皇陛下の御即位にちなんで開催されることになりました。

干鯛づくりの様子

まつりでは黒烏帽子と白装束に身を包んだ15名の地元有志が、大正天皇即位時の大嘗祭で献上した干鯛づくりを再現し、約2、500名の来場者が見守りました。また餅撒きや、鳴門鯛の天ぷら、煮付けなど様々な鯛料理の振る舞いも行われ、会場は活気に包まれました。

大嘗祭への献上鯛 宮内庁へ供納される ～JF南あわじ～

検分作業の様子

選ばれた献上鯛

天皇陛下皇位継承時の皇室行事「大嘗祭」で供えられる献上鯛が11月11日、兵庫県水産会館にて検分され、翌12日宮内庁へ供納されました。この献上鯛は、JF南あわじ（小磯 富男組合長）の丸山漁港で水揚げされる鳴門鯛で作られており、これまで大正や平成の大嘗祭にも納められてきました。

10月30日と11月1日に丸山漁港で水揚げされた鯛は、選別・活〆された後、JF兵庫漁連加工場等で開き加工され乾燥機にかけられました。1週間程度かけ十分に乾燥した25尾の鯛の中から、JF兵庫漁連 田沼 政男会長、JF南あわじ 小磯 富男組合長、中尾 博満副組合長らによって良い出来栄えの3尾が選ばれ、水引装飾を施し献上用の桐箱に納められ、風呂敷に包まれ新幹線で宮内庁に運ばれました。

小磯組合長は平成の大嘗祭でも加工作業に奔走され、2代続けて献上鯛に携わられました。今回の供納に際し、準備に携わった関係各位の皆様、大変お疲れさまでした。

林業の新規就業者研修を見学

～兵庫JCC協同組合研究・交流会が峰山高原で行われる～

JA・JF・森林組合・生協で構成する兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）では、各協同組合の取り組みの現場を見学することで、生産者・消費者間の交流を深めようと、2008年度から「兵庫JCC協同組合研究・交流会」を開催しており、今年度は林業について学ぼうと、令和元年10月23日（水）に神戸市・神河町の現場を参加者約30名が訪れました。

最初に、この1月に木材利用の促進を目的に建設された「兵庫県林業会館」を訪れました。この会館は、都市部で建設が難しかった木造オフィスビルを「CLT＋鉄骨ハイブリッド構造」と呼ばれる新技術で建設したプロトタイプで、木の板を何層にも重ねたCLT木質パネルは耐震性を高めるとともに建物自体の重量を抑える効果のほか、工期短縮によるコスト削減、木の雰囲気が味わえるものとのことでした。床材には六甲山のコナラ、壁材はスギ・ヒノキをふんだんに使い、外観もスタイリッシュな市松模様になっていて、参加者は説明と共に床や壁を触って、木に包まれたオフィスの雰囲気を感じ取っていました。

午後は場所を神河町峰山高原に移し、新たに林業に従事した方を対象とした研修を見学しました。この研修は「緑の雇用」事業の一環で、林業事業体に採用された就業者が林業の必要な知識・技能を学ぶためのもので、この日は就業3年目の約15名の研修生が重機を使った研修を行っていました。参加者は見学を行うとともに、重機操作を希望した人は指導員の指示のもと操作を行うなど貴重な体験が出来ました。

この研修のほかに、移動中のバスの車内で東日本大震災の被災地の人々が立ち上げたワーカーズコープ（協同労働の協同組合）を題材とした「Workers 被災地に立つ」の上映や、駆除されたシカを使ったジビエ弁当を昼食に摂るなど、盛りだくさんの内容の研修となりました。

峰山高原の研修現場での記念撮影

なぎさ信漁連とJF明石浦が漁業経営セミナーを共催

10月22日（火）、なぎさ信用漁業協同組合連合会（中川 照央経営管理委員会会長）と農林中央金庫は、JF明石浦に所属する若手漁業者約20名を対象に「経営者が持つべき視点と決意及び財務の視点を考えるセミナー」を開催しました。

当日は、漁業者以外にも、漁協職員やJF兵庫漁連・共水連・県庁水産課や明石市職員等行政からも出席者が集まり、総勢50名ほどが参加しました。

冒頭、なぎさ信漁連 黒田代表理事理事長から主催者代表挨拶として、「信漁連の漁業系統金融機関としての役割発揮に向けた想い」が話され、その後講師による講演や意見交換が行われました。

セミナーの講師を務めたのは、前回（但馬地区）と同様に企業コンサル・人材育成等を手掛ける「㈱後継者の学校」の大川原 基剛代表取締役です。

今回は、「経営意識を持って漁業に取り組むために必要な経営学一般」について、グループワーク（グループワークは、漁業者だけではなく、JF職員・信漁連・JF兵庫漁連・農中職員を含み6名程度を5ブロックに分けて参加。）を通じて学びました。

大川原代表は、前段部分で「経験不足の経営者が、見えないものや分からない事、過去の負の遺産と価値あるものや担い手が混在する中で動き出さねばならない状況の中、いち早く問題の本質に気づき、適切な課題と目標設定をする事で、リスクを回避し、チャンスを掴む事が出来る。」と述べられ、後継者の経営に対する意識付けの重要性を説き、後半は、財務諸表の仕組みについて言及し、受講者は不慣れな中でも事例検討等、実際に手を動かしていました。

セミナーについては、「これまであまり気に留めなかった財務について理解する事が出来た」等の感想も聞かれました。

なぎさ信漁連と農林中央金庫は、今後も希望に応じてセミナーを開催していくとのことです。

黒田代表理事理事長の挨拶

セミナーの様子

豊かな水産資源を育む適正な栄養環境の実現に向けた意見交換会

ＪＦ兵庫漁連 田沼 政男会長らは、11月10日に洲本市のホテルで、西村 康稔経済再生担当大臣及び江藤 拓農林水産大臣をお迎えし、瀬戸内海の栄養環境の悪化が水産資源の減少に大きな影響を与えていることについての意見交換会を行いました。

会では、海が綺麗（貧栄養）になりすぎたため、植物プランクトンや海藻の成長に必要なリンや窒素などの栄養塩が減少し、それらを餌とするタコやカレイなど様々な魚種で資源量が激減したことなどが両大臣へ伝えられ、豊かな水産資源を育むために適正な栄養環境を実現できるように要望書を手渡しました。

その中で、江藤大臣から水産庁・国土交通省・環境省にて協議するとの発言があり、早速翌日に各省大臣による話し合いの場面が江藤大臣のブログに掲載されました。

各省が行政の枠組みを外して協力する姿勢を示したことは画期的なことであり、今後、瀬戸内海が「豊かで美しい里海」へ再生するための取組みが早期に進むことを期待します。

赤羽一嘉国土交通大臣と小泉進次郎環境大臣に検討要請を行う、西村経済再生担当大臣と江藤農林水産大臣
（左から江藤大臣、西村大臣、赤羽大臣、小泉大臣）
（写真提供：江藤 拓大臣）

出席した方々（順不同）

団体名	役職	氏名	団体名	役職	氏名
ＪＦ兵庫漁連	会長	田沼 政男	ＪＦ洲本炬口	組合長	山本 浩之
ＪＦ兵庫漁連	専務	突々 淳	ＪＦ津名	組合長	中川 雄二
ＪＦ明石浦	組合長	戎本 裕明	ＪＦ淡路島岩屋	組合長	東根 壽
ＪＦ江井島	組合長	橋本 幹也	ＪＦ一宮町	組合長	社領 弘

要　望　書

2015年の改正瀬戸法により、瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するという理念が明確にされました。

その後４年が経過し、様々な調査・検討がされ、栄養環境の悪化が水産資源の減少に大きな影響を与えていることが明らかとなってきました。また、関連施策も実施されてきましたが、この間にも海は痩せて豊かさは失われてきました。

つきましては、「豊かな水産資源を育むため適正な栄養環境を実現すること」を同法に明記するよう再改正していただくとともに、その早期の実現に向けて以下の取組を進めていただくよう要望します。

1　水産用水基準に示された、瀬戸内海などの内湾において、漁船漁業が営むことができる生物生産性を確保するために必要とされる栄養塩濃度（全窒素0.2mg／ℓ、全リン0.02mg／ℓ）を、Ⅱ類型海域の下限とすることを環境基準に明記すること。

2　海域の汚濁負荷削減のため、1979年にＣＯＤ（化学的酸素要求量）の環境基準が設定され、その後ＣＯＤ削減のため2001年に窒素やリンの環境基準が設定された。近年では全窒素や全リンが減少した一方、ＣＯＤが横ばいもしくは増加傾向にあることから、ＣＯＤをＴＯＣ（全有機炭素）に変更するなど、現状の瀬戸内海に応じた環境基準に見直すこと。

3　海域はＣＯＤの環境基準で管理されており、そもそもＢＯＤ（生物的科学要求量）管理の必要性がないと考えられる。豊かな海の実現に向けて、窒素などの栄養塩緩和運転（季節別管理運転）に取り組む下水道処理場では、BOD基準によって円滑な緩和運転が実施できない場合があるため、これらの下水処理場では、BOD基準を見直す（海域における基準の撤廃または緩和、若しくは測定方法の変更等）こと。

4　大阪湾では、東部海域の湾奥の一部で栄養塩が偏在するものの、淡路島周辺の西部海域では全窒素が0.2mg／ℓを下回り貧栄養化が進行し、海域環境が大きく異なるため、湾奥とその他の海域を区分するなど、それぞれの海域で必要な対策を実施すること。

5　全国豊かな海づくり大会が2021年に兵庫県明石市で開催されることを契機として、必要な対策を加速化させ、貧栄養化した瀬戸内海を「豊かで美しい里海」へと再生し、瀬戸法で新設された理念を早急に実現すること。

2019年11月10日

兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長　　田沼　政男

地引網体験 仮屋漁協青壮年部と森漁協水産4Hクラブ

～子どもたちの1年1度のお楽しみ～

10月29日（火）仮屋漁協青壮年部（戎 俊輔部長）と森漁協水産4Hクラブ（森 成男部長）が森漁協の北側の浜辺で地引網体験を共同開催しました。今年は学習小学校と仮屋保育所の子供たち約70名が招かれ、浜は子供たちや、地元の見物に来られた方でにぎわいました。

青壮年部員が沖合に仕掛けた網を、子どもたちは二手に分かれて力を合わせ、一生懸命ひきあげました。

たくさんの魚が入っている網を見た瞬間、子どもたちの歓声があがり、最初は怖くて近寄れない子もいましたが、みんなで触ってみて、様々な魚を興味深く観察していました。

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：JF淡路島岩屋）が淡路の魚介類を広く宣伝し、消費することを目的に行う、「淡路の魚PR大作戦」の一環として毎年行われているこの取組みは、地元の子どもたちが楽しみにしている行事の1つとなっています。

地元の海の恵みを身近に感じてもらい、このような体験を通してどんどん魚好きになってほしいと青年部メンバーの方はおっしゃっていました。

漁獲物を見る子供たち

播磨地区漁協職員協議会 学習会

～坊勢で海を学ぶ～

播磨地区漁協職員協議会（澤浦博光会長：JF家島）は、10月31日（木）にJF坊勢（岡田 武夫組合長）ご協力のもと、漁協施設にて学習会を開催しました。

今回の学習会は、他漁協の多様な取組を学び知識を深めることにより、漁協職員の知識の向上、漁協及び系統団体の相互理解を深めるために、「海を学ぶ！」をテーマに企画され、50名が参加しました。

妻鹿漁港より、本年4月に竣工した漁業体験見学船「第八ふじなみ」に乗船、モニター設備でDVDを視聴し、快適な船内を見学させていただきました。まず定置網漁をするポイントまで行き、漁業者が間近で定置網漁を行う様子を見ながら、網の使い方等を教えてくださいました。その後、坊勢さばの生け簀をまわり、中間育成場にも案内いただき、元気なヒラメ等の幼稚魚をたくさん見せていただきました。最後に、組合の会議室での質問タイムでは、とれとれ市場の施設運営や、組合員の後継者対策について、また島の環境についても話してくださり、参加者は熱心に聞いていました。

昼食は、妻鹿漁港の姫路とれとれ市場にて、鯖やガザミ等新鮮な坊勢の海の幸がふるまわれ、様々な料理を楽しみながら満腹になるまでいただきました。新鮮なハマチのお土産まで用意いただき、おもてなしいっぱいの学習会となりました。

中間育成場の見学

操縦席の3Dソナー

挨拶する岡田武夫組合長

家族＝地域を支える LGC（安全推進少年隊）活動

～積極的に海難防止を呼掛ける子供達～

姫路市周辺では、毎年、防波堤や船舶からの海中に転落する等の事故が発生し、特に、厚着や寒さ等による体の動きが悪くなる秋から冬場にかけて、事故が多く発生する傾向にあります。また漁業者の活動として、昼すぎから翌朝2時まで漁に出かけることが多く、直接、漁業者に事故防止の指導を行うことは困難であるため、JF姫路市妻鹿支所長とその事故防止対策の打合せを行い、漁船は小型船のために、一度事故を起こすと海中転落する危険性が高く、海中転落が死亡事故に直結していることの認識や救命胴衣着用の必要性を痛感してもらう取組みについて検討を続けていました。

そこで、海中転落事故が多くなる時期前の令和元年10年26日、JF姫路市白浜支所、同JF大塩支所等が所属する組合員の子弟に対して、五管区初となるLGC（安全推進少年隊）を委嘱し、漁船、プレジャーボート、作業船等が多く係留するほか、釣り人がいる漁港・港湾において、妻鹿漁港（港口）の防波堤壁面への安全啓発標語「ライジャケは家族にとっても命綱」と記載するとともに、漁港、家庭内において事故防止呼びかけを実施しました。

委嘱状を受取るLGC

イベントに参加したLGCや家族からは、「事故防止を呼掛ける良い機会になる」として、今後とも事故防止に積極的に取組みたいと、早くも次なる活動の期待がなされるとともに、JF姫路市白浜支所では、組合員だけではなく、家族や子供（地域、行政機関）も漁業を支えてくれているという共助意識が芽生えはじめてきたとして、漁業者を含め漁協関係者の意識改革にも繋がる、更なる活動を模索中です。このため、事故防止に果たす役割の大きい家庭や社会での活動をより効果的に活発化させるべく、委嘱したLGCの協力のもと、今後とも、漁師を始め、釣り人等の意識改革を目的に様々な取組みを実施していくこととしています。

（記事：姫路海上保安部 交通課）

関係機関との集合写真

淡路水交会の「漁業者による森づくり」

～洲本市第二小学校児童も参加しての植樹活動～

一般社団法人淡路水交会（東根 壽会長）が主催する「漁業者による森づくり」が11月12日（火）、洲本市の山林で行われ、ウバメガシ600本を植樹しました。

この活動は、漁業者がウバメガシや間伐材を使った〝柴漬け〟による産卵床の設置によりアオリイカなどの水産資源の増大を図る活動と、一般県民と力をあわせた漁業者の森づくり活動を連携して行い、環境保全と地域貢献を図るもので、今回で11回目となります。

当日は島内JF役職員、漁青連、女性連のほか、行政や系統団体、さらに洲本市第二小学校3年生児童31人を加えた約150名が集合しました。参加者らは植樹手順の説明の後、苗木と土嚢に入った土を次々に運び込み、用意した苗木を植樹しました。

児童らは、県洲本農林水産振興事務所担当者から説明を受け、森・川・海の関係についても学習しました。この森づくり会場は過去にも植樹が行われており、9年前に植えられた苗木がしっかりと根付き、大きくなったものもあり、参加した児童にみんなと同い年だと説明すると、驚くとともに「山に生えている大きな木のようになるには何年かかるの」といった質問もありました。

豊かな海の再生に向けて、また、アオリイカ増殖に繋がる「森づくり」事業は、今後も淡路の各地で展開されていきます。

洲本第二小学校3年生のみなさん

大輪田塾だより

令和元年度 大輪田塾修了式ならびに入塾式 開催
～第13期生3名が修了～

修了生の紹介

氏　名（期）	所　　属
布施　達也（13期生）	ＪＦ神戸市
土井　祐介（13期生）	ＪＦ明石浦
岡田　京大（13期生）	ＪＦ坊勢

（敬称略・順不同）

修了生の記念撮影
（前列左から：土井さん、長島水産課長、東根塾長、田沼県漁連会長、岡田さん、布施さん）

幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく「浜のリーダー」を育てることを目標に、様々な研修・講義を行っている大輪田塾で修了・入塾式を執り行いました。今年は11月5日（火）に兵庫県水産会館で、令和元年度大輪田塾修了式ならびに入塾式が行われ、13期生3名が修了するとともに、15期生となる新入塾生4名が入塾しました。

東根 壽塾長（兵庫県水産振興基金理事長）、県水産課 長島 浩課長をはじめ、同塾運営委員、県・系統役職員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ東根塾長から修了証書を手渡された後、「決意の言葉」を述べました。その後、14期生 福井 健二さん（ＪＦ林崎）からの「送る言葉」を受けた3名は決意を新たに修了しました。

続いて行われた入塾式では、新入生代表の清水 琢人さん（ＪＦ明石浦）が力強く「誓いの言葉」を述べたのち、14期生 菱谷 維起さん（ＪＦ淡路島岩屋）から歓迎の言葉が贈られました。式は、東根塾長の訓辞、来賓の県水産課長島課長、ＪＦ兵庫漁連 田沼 政男会長から祝辞を頂き、終了しました。

このあと大輪田塾アドバイザー 秋武 宏氏による記念講演「大輪田塾15周年記念公演 大輪田塾の設立について」が行われました。大輪田塾設立時の時代背景や設立の経緯、塾カリキュラムの内容など、大輪田塾が15年に渡って学習の場を提供し、優秀な「浜のリーダー」を輩出した歴史が話されました。

修了生のこれからの活躍を祈念するとともに、新たに加わった15期生の塾での頑張りに期待します。

入塾生の記念撮影
（前列左から：藤原さん、永松さん、長島水産課長、東根塾長、田沼県漁連会長、濱田さん、清水さん）

入塾生の紹介

氏　名	所　　属	漁業種類
清水　琢人	ＪＦ明石浦	漁協職員
永松　　航	ＪＦ坊勢	漁協職員
濱田　直樹	ＪＦ淡路島岩屋	船曳網
藤原　聡志	兵庫県漁業共済組合	系統職員

（敬称略・順不同）

子どもやお年寄りへの見守り活動による地域貢献活動

JA兵庫みらい

JA兵庫みらいでは、行政機関と連携して地域の人々が安心して暮らせるように、職員による「みらいみまもり隊」を結成し、子どもやお年寄りを対象とした見守り活動を行っています。

「みらいみまもり隊」では子どもたちへの見守り活動として、地域の自治体ボランティアや小学校の教員らと共に、小学校付近で旗振り運動を行っています。道路での危険から子どもを守ることはもちろん、地域の人と気軽に声を掛け合える関係をつくり、事件が起こるのを未然に防ぐことも目的です。活動中は、「みまもり隊」らと小学生が互いに笑顔で気持ちのいいあいさつを交わしています。

一方、「高齢者みまもり隊」では、主に一人暮らしのお年寄りを見守る活動を行っています。この活動は、市と協定を結んでおり、JA職員が渉外活動で組合員宅へ訪問した際に訪問宅の様子や会話等を通じて異常がないかを観察し、もし異変があれば行政機関へ連絡する仕組みとなっています。

また、万が一の事態に対応できるよう、職員研修として年に一度、市民救命士養成講習会を開催しています。市の消防職員を講師として招き、救命のための技術を実践的に学び、職員の「何かあったら自分が助ける」という意識を醸成しています。

JA職員らによる、小学校前での見守り活動

地域に根差した協同組合として、見守り活動を通じた地域貢献活動を今後も継続していきます。

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

ピースアクション2019

〈第2弾〉「『鶉野（うずらの）飛行場』を巡る」を開催

兵庫県生協連では、平和の大切さを考え確かめ合う場として「ピースアクション」の取り組みを行っています。今年度のピースアクション〈第2弾〉として、10月22日（火）「『鶉野飛行場』を巡る」を開催し、会員生協の組合員ら40名が参加しました。

今回は、三木市にある「兵庫県広域防災センター」と、加西市にある「鶉野飛行場跡」を訪れ、防災や戦争について学んできました。

「兵庫県広域防災センター」では、「阪神・淡路大震災」や「東日本大震災」などを振り返りながら、施設の役割や災害時に役立つ「命を守るための行動」についての講義を受けました。また、「煙避難体験」や「地震体験」を行い、暗闇の中での避難の難しさや、大地震の揺れを肌で感じ、体験者からは「強い揺れが来るとわかっていても怖かった」「これが訓練でよかった」などの声がありました。

次に訪れた「鶉野飛行場跡」では、市民団体「鶉野平和祈念の碑苑保存会」の理事を務めている上谷昭夫さんにガイドをお願いし、鶉野飛行場の歴史を学びながら跡地を見学しました。今回は特別に、跡地内にある「巨大防空壕跡」の内部を見せていただくことができ、爆撃時の状況などのお話を聞かせていただきました。

ピースアクション2019〈第2弾〉は様々な体験とともに、戦争の史実や防災学習を通し、平和について考えることができました。

「紫電改」をバックに参加者全員で記念撮影

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

赤とんぼ

旬に想う

写真と文 遊方子

天壽を生きる

◆『日本書紀』に「民の大半が疾疫（えやみ）により死亡した」と記したのが、わが国初の疫病流行の記録だそうだ。疾疫のうち恐ろしいのは伝染病だが、江戸の人は三日コロリ（コレラ）を恐れた。突然の腹痛と嘔吐・下痢で、発病から三日で亡くなる。この病人が町々に溢れ、焼き場には焼却待ちの棺が山積みされたという。長寿を願う時伝染病の流行は大敵で、最大限の警戒を必要とする。現代は幸いに良い医薬品があり、法定伝染病から守られており有り難い事だ。百歳以上が七万人を超え敬老の日を迎えた。最高齢は女性で百十六歳という。

◆漱石『我輩ハ猫デアル』の冒頭は誰でも知る所だが、最後の場面はどうだろう。「我輩は死ぬ。死んで此の太平を得る。太平は死なゝければ得られぬ。南無阿弥陀仏々々々々々々。有難い々々々」である。人の死亡原因は長く結核・脳卒中・ガンだったが、一九八一年以降はガンによる死者がトップとなり、今後暫くはその座は揺るぐ事はないという。結核が治癒可能となり脳血管障害も高血圧の管理などで減少傾向に転じ、ガンも初期発見で4割は撲滅され、完治する人も少なくない。喫煙も、もっと真剣に全面禁止に踏み込むべきだ。天壽を生きるため欲望を抑え『老いは爽快なり』と高らかに宣言したいものである。

◆長寿と健康を考える時、貝原益軒の『養生訓』が役立つが、養生法は個人によって様々であり難しい問題だ。作家の五木寛之さんは「趣味は養生である」と、常に養生を考えておられる。人類の限界寿命という天壽に出来るだけ近づくには常の努力が要る。「人生百歳、臥して十日」が理想だが、後ろから不意に来て肩をポンと叩かれる様に、樹木が枯れる如く消えたいと思うが、そんな具合には行かない。知らぬうちに悪習慣が身について、抜き差しならぬ態に陥るかも知れず、達者で暮らすのは甚だ難しい。本当はみんな死ななくなったら大いに困るが、神様が与えて下さった「寿命」だ。せいぜい大切にしよう。

◆高齢になると幼児化するというが、キッズの無垢な仕草には清らかな安らぎを感じる。天壽を全うするため、生きるという信念を培いつつ一日を完全燃焼させたいものだ。社会の一個の歯車として、我らの生活はなり立っている。遮二無二走り続けて老年期に入った。健康な身体を維持するには、栄養・運動・休養を適正に摂ることだという。栄養はエネルギー源だから色んな食品を十分に摂らねばならないし、運動も欠かせないが、休養も大事である。時間は流れて、一瞬に消えて仕舞って過去となる。いま此の瞬間を大切にすることだ。新聞を読むのが億劫になったら要注意だという。せいぜい新聞には目を通そう。

農業×漁業の若手組織連携プロジェクト

～淡路産の農水産物イベント第5弾～

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：ＪＦ淡路島岩屋）は、洲本市の農業後継者グループ「洲本市農業青年会議」と協力して、淡路島の農水産物ＰＲや漁業やおさかなを知ってもらおうと、11月10日（日） 淡路市ハイウェイオアシスで第5回ＰＲイベントを開催し、青年部員たちで作成した淡路島のお魚販売店マップをはじめ多くの豊かな海についての広告を配布するとともに、アンケート調査を実施しました。

アンケートにご協力頂いた方が参加できるチャレンジ企画では、みかんの重さ1kgを測る「みかんチャレンジ」、ワンコインでビニール袋にみかんを詰める「みかん詰め放題」を実施し、大行列が出来るほどの盛況ぶりで賑やかな声が人、また人を呼び、準備したアンケート用紙が早々に無くなり、過去最高数を集めることができました。

タッチングプールの様子

また、タッチングプールでは大勢の子供たちが水槽を取り囲み、普段見たり触ったりすることが出来ない、生きているカワハギやサメに大興奮の様子で、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、子供さんと各世代をつうじて楽しい時間を過ごしてもらえました。

今後は、これまで集めた1,250数のアンケート調査結果による観光客の動向などを参考に次の事業についての打合せを行い、さらに淡路島の食材や地域の重要な産業である一次産業を広くＰＲする活動へ結び付けていきます。

拓水 TAKUSUI 11 November

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336